

平成26年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績・効果	今後の取組方針
1	銀河鉄道999でまちおこし事業	新谷一万石まちおこしの会	新谷と深く繋がりのある松本零士先生の代表作である「銀河鉄道999」を活用したまちおこしを図る。 「銀河鉄道999」の大型看板設置、松本先生に出席いただいたのイラスト審査会の開催、竹キャンドル等を設置してのイベント等を実施する。 ⇒松本先生謝礼、銀河鉄道999看板設置工事費、銀河鉄道999イラスト審査会費用、竹キャンドル・紙コップキャンドル費用、ポスター・チラシ作成費など。	2,000,000	2,000,000	10月18日(土)開催の出発式、長テーブルイベント及びキャンドルイベントへの来場者は約3,000人。翌日のイラスト審査会は約200人が来場。作品は全国各地から91点が集まった。マスコミはほぼ全社が来られ、イベントの様子を全国へ発信いただいた。 また、県外からのお客様をはじめ多くの方に大変喜んでいただき、複数の参加者が新聞社に当イベントの記事を投稿し、その内容が掲載された。多くの方が「新谷の方のおもてなし」に感激された。 (有)亀岡モーターズ付近、国道沿いに巨大看板設置。 広告面 2,850*5,000(高さ4,850mm)	初期目標である「新谷」の発信は、ある程度成果を得たと感じているが、次の目標としてはイベントの継続実施による知名度の更なる確立、そして単なるイベント開催による打上げ花火で終わらないよう、観光客を楽しませるためのハード整備、その対応ができる組織作りが必要である。 また、それらを維持していくための(補助終了後の)財源の確立が重要である。
2	龍馬脱藩の川下り	大洲市観光協会長浜支部	坂本龍馬と沢村惣之丞が肱川を下る姿を再現し、「川下り」で脱藩の道を体験してもらう。 白滝から長浜まで屋形船に乗り肱川を下る。 「赤橋自遊空間」「長高水族館」も特別開催し、末永邸では臥龍太鼓や豊年踊りなど様々なイベントも実施する。 ⇒チラシ作成費、屋形船等運搬費、船頭謝礼、イベント保険料、仮設トイレレンタル料など。	632,000	632,000	○参加者数 ・川下り 48名(市内28人、市外20名) ・カヌー 34名 当日は風が強くてあまり良い天候ではなかったが、「大変満足した」「来年も参加したい」というような意見を多くいただいた。また、「赤橋自遊空間」や「長高水族館」にも多くの方が訪れ、末永邸で実施した豊年踊りなども好評であった。	今後も行政や観光協会だけでなく、商店街や長浜高校などと協力して実施することで、地域が一体となったイベントにしていく。 資金面については、少し経費が膨らみすぎており、現状としては補助金がなければ実施できない状況であるため、今後検討が必要である。
3	小学生『うかい』体験事業	大洲市観光協会大洲支部	市内の小学5年生を基本に、学校行事を利用して「大洲のうかい」と肱川を知って頂く。 鶴匠による「鶴飼い」の授業や、屋形船で案内人による肱川や大洲観光の説明を行う。 また、要望がある学校には鶴匠自らが鶴を連れて出向き、プールを使って『うかい』の授業を行う。 ⇒鶴匠・船頭・案内人報償費、幟代、プール・ポンプ代、鶴の餌代、歓迎垂幕など。	903,000	576,000	大洲市内15校の内7校が参加。283名の児童に「屋うかい」を体験して頂いた。うかい出前教室では肱川小学校にて総合学習の一貫で40名の児童に鶴匠が2羽の鶴を連れて行き、大洲の伝統文化として観光の目玉である「うかい」の授業を開催。出前教室については、今年度の初めての試みだが、児童たちが本物の鶴を目の当たりにしての授業には大変、喜んでくれた。 来年度の体験授業では、もっと周辺の学校に営業に行き参加校を増やしていきたい。 終了後の児童達の感想文と絵日記には、協会スタッフも感動を頂いている。	今後も教育現場と一体となり教育活動の一貫として取組体制を構築し、児童たちが将来、『大洲のうかい』を市外へ自慢できるように取組んでいきたい。『大洲のうかい』を地域に伝授することで魅力ある大洲の文化を目指したい。 また、市外の児童にも体験して頂けるよう営業をしていきたい。
4	がんばる商店街おいでや市	大洲スタンプ協同組合	『がんばる商店街おいでや市in殿町・in常磐町、ドリーム大ちゃん等を実施する。 同時に、大ちゃんスタンプの台紙回収を目的としたイベントを開催し、眠っているスタンプや台紙の使用促進に重点を置く。 ⇒ポスター・チラシ作成費、看板作成費、イベント用備品購入費、お買物券等印刷費など。	2,000,000	2,000,000	8月9日ガラポン抽選会は、台風のため警報発令で悪天候にもかかわらずおいでいただいた客数のべ約30名と散々の結果であった。 9月6日おいでや市in殿町は、客数約250名。初のコラボであった殿町商店街だが、イベントの準備・進行など店だけでなく信用金庫等事業所の協力もあった。 10月26日おいでや市in常磐町は、客数約500名。イベントの中で特にミニSLはお客様に人気であった。 1月17・18日ドリーム大ちゃん、客数のべ約1500名。3月3日春のガラポン祭りはのべ約150名であった。	殿町商店街については、毎月開かれている各店頭での『バカ殿市』をこれからも継承し、年に一度くらいは商店街が一丸となったイベントを開けたらとの声があがっている。 常磐町商店街は、空き店舗が増えている事への対策を考えているが、なかなか埋まらないのが現状である。引き続き空き店舗対策を続けていく。 大洲スタンプ協同組合は、今年で5回目のがんばるひと応援事業を実施して来た。商店街にたくさんの方があふれるイベントもあれば、思うように成果の出ないイベントもあった。 特に、店の売りに直結するドリーム大ちゃんは、お客様に日頃の感謝をお伝えする素晴らしいイベントでもありと考えているので、続けて行く。
5	HIJIKAWA芸術文化とワークショップ	風の博物館 友の会	風の博物館を活用した地域活性化事業として、市民参加型の作品作り教室を実施する。 また、大洲在住のカメラマン指導のもと、学生が博物館のいたるところを撮影する事業、内子町(五十崎)出身の洋画家である上岡美平氏の作品展示を行う事業を実施する。 ⇒ポスター・チラシ作成費、電気炉等機材購入費、講師謝礼、作品搬入出料など。	473,000	473,000	①風の博物館Award2014では、4月6日から3月22日にかけて13種のワークショップ(計56回)を開催し、355人の参加があった。 ②「上岡美平展」については、期間内の入館者が約500人となり、秋冬期の企画としては多くの方に観ていただけた。 実施期間 前期:平成26年11月7日～平成26年12月28日 後期:平成27年1月9日～平成27年3月9日	今後の取り組みとして、ワークショップの継続開催、新規内容の企画。展示型企画として、地元縁のある文化人の展示会の開催。

平成26年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績・効果	今後の取組方針
6	魅力ある地域づくり推進事業	愛媛県立大洲農業高等学校	<p>①大洲エビネ会と連携し、栽培技術や新品種の育成に努め、エビネ文化の技術継承を図る。 ⇒エビネを培養するための道具一式。</p> <p>②「おうど芋」を含む野菜を原料とした「ベジタブルスイーツ」の研究開発並びにPR活動を実施。 ⇒加工品開発用備品、原材料費、講師謝礼など。</p> <p>③肱川流域の放置竹林を活用して竹細工と竹炭を制作し、環境保全活動を図る。 ⇒炭焼き機製作用道具一式、講師謝礼。</p>	861,000	861,000	<p>① 大洲ブランドの知名度の向上 ・ 地場農産物の産地化と情報発信 ・ 環境保全活動の推進と地域住民への啓もう活動</p> <p>② ・ JAと協力し、地元の伝統野菜であるおうど芋の試験栽培を行った。 ・ 大洲市、JAえひめたいき、地元企業野菜ソムリエと協力した、新たな加工品の開発に向けた活動を行った。 ・ 野菜ソムリエによる野菜を使った加工品開発の検討会を2回実施した。 ・ 日本学校農業クラブ連盟主催 第65回農業クラブ全国大会(沖縄大会)で、今年度の取り組みについての発表を行った。</p> <p>③ ・ 放置竹林を身近な問題として考えようと、肱川流域の水防竹林を活用した竹細工に取り組み、竹かごを製作した。また、その竹かごを大洲市おはなはん通り休憩所に展示した。 ・ 移動式竹炭製造機を製作し、いろいろな場所で交流活動が展開できるようになった。</p>	<p>① ・ 県外のエビネ愛好家との交流活動を実施し、大洲エビネの普及活動を推進する。 ・ ホームページやSNSサービスを利用した大洲エビネの普及・広報活動を実施する。</p> <p>② ・ 地元の企業と連携して常に新しい加工品開発を行っていくことで、生徒が考えた加工品の商品化を進めていきたい。 ・ 大洲を訪れる観光客に対して、地場農産物を使った加工品のPRを行っていく。</p> <p>③ ・ 身近に使える竹細工を見つける。 ・ 竹炭を利用した竹細工の製造方法を研究する。 ・ 放置竹林の伐採面積を調査する。</p>
7	支え合う元気な地域づくり事業	楯生地域自治会	<p>「石窯で焼いたピザ」を看板メニューとして楯生地域内で食材調達から調理、食べるまでの一連の体験学習を実施する。 併せてアワビ等高い収益性が見込める魚介類の養殖を行い販路開拓を行う。 ⇒ポスター・チラシ作成費、ピザ窯・養殖場施設整備費、ピザ試作材料費、販路開拓費など。</p>	1,754,000	1,754,000	<p>・ ピザ窯補完施設(シャッター)整備 ・ ブランドピザ開発等調査研究(ピザ体験研修(松山市)、試作研究12回) ・ 養殖場日除け施設整備 ・ 養殖技術確立に向けた調査研究、販路開拓活動</p>	<p>今年度、事業を開始した中で明らかになった課題をハード・ソフト両面で解決することにあわせて引き続き参画者全員が主体的に取り組んでいく。</p>
8	拡大おおずアクティブチャイルドプログラム	特定非営利活動法人おおずスポーツクラブ	<p>ボール・コーンを使って遊びの要素を入れ運動リズム・動作を学ぶキッズプログラム、昼休み等を利用してボール等で体力向上を図る体力向上プログラム、和太鼓を叩かせて自主性とリズム感の向上を図る和太鼓プログラムを実施する。 ⇒各プログラム指導料、和太鼓代、サッカーゴール・ボール代など。</p>	736,000	577,000	<p>●キッズプログラム(参加園児:約500名 実施回数:190回) コーン、ボールを使い、楽しみながら基本的動作、運動リズム、バランス感覚を指導。プレ・ゴールデンエイジに必要とされる運動動作、リズム感、バランス感覚などを楽しみながら体感し、体を動かすことへの興味を刺激して定期的な運動へ繋げるもの。</p> <p>●小学校体力向上プログラム(対象児童:約245名 実施回数:35回) 遊びを通して体を動かす楽しさを体感し、スポーツにおいて必要な要素を刺激することで日常生活においてもスポーツをする習慣、生涯スポーツへと繋げていくもの。</p> <p>●和太鼓プログラム(対象園児:約170名 実施回数:66回) 和太鼓を使用し曲目に合わせて太鼓をたたいたり踊ったりすることでリズム感、自主性を育むとともに、和太鼓という文化的な活動を学ぶことができる。園の行事で地域の方々へ披露することで自信にもなり成長できるもの。</p>	<p>キッズプログラムに関しては、25年度から補助金がなくなっても継続して活動できるよう協賛金を募る活動を始めた。今後も地域の法人、個人の皆様からご支援いただき地域の子供たちは地域で育てるというモデルを形成していきたい。 また子どもたちの体力向上、健康増進、さらには発育発達における重要な要素という観点から、これらのプログラムが行政からの委託事業として成り立つよう実績を積み、提案していきたいと考える。 そして、この活動を通して地域住民が定期的にスポーツを楽しむこと(関わること)で、地域コミュニティの発展、健康志向で活力ある町づくりに貢献していく。</p>
9	豊茂地区農産加工品開発及び施設等整備事業	豊茂自治会	<p>豊茂小学校を有効活用し、地区の特産を生かした野菜の加工や、パン・和洋菓子などを作り、ふるさと祭りや産直市などで販売するなど、地域経済の活性化につなげていく。 そのための、小学校の改修や備品等の整備も併せて行う。 ⇒新商品開発に係る講習会費・試作用材料費、冷蔵庫、ガスコンロ等備品購入費など</p>	1,800,000	1,800,000	<p>講習(商品開発)では、18名の参加があり、女性会の参加により25名で実施した。売れる商品開発ということで、皆熱心に取り組んでいた。 加工等施設は、職員室を2分割し、農産加工と菓子製造は食品衛生法により別々で整備し、それぞれに備品や作成品を用意した。</p>	<p>平成27年度も県6サポ等の指導をいただき、継続して調査研究、開発を行うこととしている。現在の作業参加者の意欲は高く、一層地域の方に参加いただくように考えている。 今回の取り組みにより、地域の多くの方が商品開発のノウハウを学びスキルも上がっているため、引き続き豊茂地区の商品開発と販売に向けた取り組みを行っていく。</p>

平成26年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績・効果	今後の取組方針
10	長高水族館15周年プロジェクト～多くの人に、より安全に、より快適に～	長浜高等学校水族館運営協議会	エンジン付きボートを整備し、シーカヤックを用いた自然体験プログラムの研究を安全に行えるようにする。 水槽を設置した中庭を整備し、来館者が安全で快適に過ごせるようにする。 長高水族館にちなんだゆるキャラ着ぐるみを制作し、長高水族館と大洲市を全国へ発信する。 ⇒小型ボート代、着ぐるみ代、中庭整備費用。	1,850,000	1,850,000	長高水族館を第3土曜日に一般公開し、自然体験の場を提供した。教育団体には、必要に応じて臨時公開し、環境学習の場を提供した。今年度は生物多様性フェスティバルにも参加し、エミフル松前で出張水族館と研究発表を行った。 平成26年3月末現在で、本年度の来館者の内訳は次の通りであった。 一般公開日:4,386人、保育園・小学校・出張水族館等の臨時公開:2,623人 その他:1,000人、合計8,009人。 参考:平成22年度3,870人、平成23年度4,494人、平成24年度6,870人、平成25年度8,277人。 ハード事業として、小型ボート(3.3m、免許不要、2馬力エンジン付き)、クマノミとネコをモチーフにしたオリジナル着ぐるみを購入し、中庭を整備した。これにより、海での研究・調査・採集活動の充実、ゆるキャラ着ぐるみによる長高水族館と大洲市のイメージアップ、来館者の安全・快適な中庭での滞在を図ることができた。	毎月の水族館公開日に来館者アンケートを実施しているが、その中で最も多い意見は、「水族館をもっと大きく広々と快適にして欲しい」というものである。校内に本格的な水族館ができるのが理想だが、それは現状では難しい。 したがって今後進むべきは、今の長高水族館をより魅力的に活用することである。 そこで、来年度は中庭の整備を追加して、一般公開日に屋外カフェをオープンしたい。 また、完成した着ぐるみを活用し、長高水族館と大洲市のアピールをしていく。
11	大洲・長浜・肱川・河辺音頭movie制作事業	街づくりカフェ	大洲市公認となる大洲・長浜・肱川・河辺音頭のmovieを制作する。 大洲の各名所で、老人会、保育所、リフティング世界大会優勝の徳田さんや市民に、小節ごとに踊っていただく。 制作したmovieは、YouTubeやVimeoで広く公開する。 ⇒動画撮影・編集代、ポスター・チラシ作成費、ハッピー等クリーニング代、撮影スタッフ宿泊代。	1,975,000	1,928,000	計画通り、大洲市内全箇所撮影することができた。名所それぞれの持つ特色を生かすため、それぞれの一番映える季節を選ぶことが出来た。 全部で83箇所、出演団体93団体、市長さん・消防職員・リフティング徳田さんを含め、述べ1,040名の大洲市民に参加していただいた。 制作したmovieは、上映会を開催し230名ほどの市民に見ていただいた後、インターネットでも配信を続けている。配信2カ月で、プレビュー回数が総計4,000回を上回っている。大洲市HPへの掲載は、現在も交渉中。	今後は、大洲市HPトップページへの掲載の依頼を引き続き行い、大洲の観光巡りの公認としたい。 また、フェイスブックページの活用をし、現在の大洲市を掲載することでmovie撮影場所とのリンクを図り、観光客を増やすきっかけとしたい。 市内イベント時にプロジェクターで放映するなど、もっと周知人数を増やしていく。
12	菅田地区盆唄・盆踊り制作事業	菅田地区盆踊り大会実行委員会	菅田地区には、地域が一体となって取り組む特別な行事(お祭り)がないため、菅田独自の盆唄や踊りを作り上げる。 地域住民が自らの手で、作詞・作曲、演奏、踊りの振り付けを行い、盆踊りのCDを作成する。 ⇒盆踊り録音委託料、CD制作費、演奏者等謝礼。	280,000	280,000	【盆踊り習得数】 菅田婦人親和会 10名・老人会2名 菅田地区スポーツ少年団関係者 大人18名・子ども44名 ※盆踊り大会前に2回の踊り練習を実施し、上記関係者が習得したが、今年度が始めてであり、毎年、踊り練習を実施し、徐々に取得者を増やしていきたい。 【盆唄CD配布数】 菅田行政区30枚・教育施設3枚・各種団体ほか12枚	今年度制作した菅田盆唄を、菅田の宝物として、次世代に継承しながら、子どもから高齢者までの世代間の交流の場(盆踊り大会・町民運動会・ふるさと文化祭)で活用していく。 踊りを後世に引き継いでいくため、引き続き、盆踊り大会前に地元婦人会や老人会などの団体の協力を得て、菅田スポ少の子どもや保護者との練習を行っていく。
13	肱川あらし予報事業	肱川あらし予報会	「肱川あらし」は、大洲市の独特の地形から生み出され、世界に類のない自然現象であることをインターネットで情報発信することにより認知度を向上させる。 また、「肱川あらし」の発生を予報することで、より多くの方に「肱川あらし」を見に来ていただける機会の促進を図る。 ⇒出演者等謝礼、カレンダー印刷費、HP作成・予報更新業務等委託料、救命胴衣代など。	1,589,000	1,589,000	・肱川あらしの予報サイトを10月10日に構築し、10月31日から2月28日まで毎日予報を行った結果、9,630件のアクセスがあった。 ・肱川あらし体験モニターツアーを12月10日に開催し、21名の参加があった。(愛媛新聞による募集) ※募集状況や参加者の意見をもとに、肱川あらし体験はツアー参加に十分魅力のあることが分かった。 また、肱川あらし体験だけでなく、他の魅力あるコンテンツと組み合わせることで、松山からの集客が見込めるものであることが分かった。 ・ホームページの作成・カレンダーの作成を行い、情報を幅広く発信した。 ・肱川あらし体験用のライフジャケット購入により、体験者の安全安心が高めることができた。	・情報発信ツールとして、絵葉書の作成やフォトコンテスト等のイベントの開催などを継続して仕掛けていく必要がある。 ・肱川あらしは、毎日現れる現象ではないことや早朝の短時間の現象であることから、観光資源として活用するためには、長浜地域だけでなく、大洲市内全域・近隣地域の観光資源と組み合わせたツアー商品化を目指す必要がある。
14	戒川地区榎谷の棚田保全事業	榎谷棚田保存会	榎谷棚田を持続的に保全するための基盤整備を行う。 保存会の事務所としてプレハブ、仮設トイレを設置し、見学者にも利用いただく。 「地域づくり協議会」を立ち上げ榎谷を含む戒川地区の地域づくり計画を策定(27、28年度にかけて)する。 また、棚田お手伝い隊事業を実施する。 ⇒ユニットハウス・簡易水洗式トイレ代、パソコン・プリンター代、アドバイザー交通費など。	1,033,000	1,033,000	ハード事業については、保存会連絡所(兼休憩所)と仮設トイレを計画通り設置完了。9/28の収穫祭で清水市長及び6市議の出席も得て、お披露目式を行うことができた。 ソフト事業では、棚田お手伝い隊の活動、愛媛大学や大洲農高との連携、ホームページの立ち上げを行い、榎谷棚田の認知度が高まった。秋の収穫祭や年末の注連縄づくりなどへの域外からの参加も拡大した。こうした中で、来訪者も着実に増加している。 「榎谷・戒川地域づくり協議会(中島峰広座長他9名)」が11月にスタートし、棚田オーナー制度など持続可能な保全活動に向けて次年度に繋がる事業にも着手した。	・若い力を引き入れることが喫緊の課題で、そのためには移住者受入れ体制の整備が急務。今後、「地域づくり協議会」で地場製品の開発、旧戒川小施設を活用した地域おこしなどと合わせて、移住者受入れ制度などの検討をすすめる。 ・地元の大学、高校、小学校などとのコラボをさらに進める。 ・行政との連携を強め、効果的な棚田保全策を実行する。

平成26年度大洲市がんばるひと応援事業の実績について

(単位:円)

整理番号	事業名	団体名	事業概要	交付決定額	実績額	事業の実績・効果	今後の取組方針
15	ポコペン横丁イベント 拡充事業	大洲まぼろし探偵 團本舗	<p>遞減傾向にある来場者の増加を図ることを目的として、地域団体と連携した新規イベントを開催するとともに、夏から運行開始となるJR観光列車の乗客へのPRを行う。</p> <p>また、屋外施設の弱点だった雨天時や猛暑日への対策を図り、子供たちが安全・安心に遊べる空間を提供する。</p> <p>⇒ポスター・チラシ作成費、テント・遮光ネット代、ゴム銃大会等景品代、バス借上料など。</p>	1,578,000	1,554,000	<p>①老朽化による損傷が著しかったベンチ、縁台等を買替。ベンチは背もたれのあるものにしたことにより、幼児老人等が安心して寛げる空間を提供できた。</p> <p>②テント・基の追加購入により、ポコペン小学校や昔遊び選手権の小雨対策が万全となった。</p> <p>③霧噴射扇風機2機を購入。真夏の炎天下での子供たちの遊びスペースに涼感を提供できるようになった。また長期使用により損傷していた遮光ネットを買い替えたことにより直射日光を防ぐことが可能となった。</p> <p>④青空小学校イベント、昔遊び選手権の開催回数を増やし、集客数がアップした。新規事業としての羽子板お絵かき選手権においては、家族連れの滞在時間が延長された。</p>	<p>空き店舗・休み店舗を減らすためメンバーの拡充を行うこと。</p> <p>各種イベントは運営をマニュアル化し、スタッフの分担作業を明確かつ固定化。確実に継続性のあるイベントにする。</p>
16	えひめYOSAKOI祭 り事業	えひめYOSAKOI 祭り振興会	<p>「えひめYOSAKOI祭り2014」を8月24日(日)に実施する。</p> <p>踊り子・観客に余裕を持って楽しんでもらえる祭りを目指し、時間を全体的に前倒しするとともに、スムーズな進行を行うための警備の増強、渡し船の追加、近隣住民に理解を求めるためのチラシの配布等を行う。</p> <p>⇒テント設営費、ステージ演出料、チラシ作成費、警備委託料、看板作成費など。</p>	1,862,000	1,862,000	<p>今年度初の試みであるエントリー制においては、警備員の増強と、追加した音響機器、そして念入りにシミュレーションした進行プログラムにより、当初危惧していた参加チームの混乱や各商店街での混乱もなく、予定していた時間通りスムーズに進行できた。</p> <p>また、周辺住民に対しての事前告知を徹底したので、騒音などによる苦情は一切なかった。</p> <p>農高・帝京の市内2校、計14名の学生がボランティア参加し地域の為に一生懸命作業をしてくれた。</p> <p>本祭の参加チーム数は31チーム 計1,200人の踊り子、観客動員数は緑地公園特設会場で5,000人、市内演舞場、競演場含み総動員数は約12,000人であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・エントリー制なども含め祭りの進行の仕方などをしっかり検証しつつ発展させたい。 ・今後この実行委員会をより充実させ、いずれは、若い学生主体での運営に期待するがそうできるようなメンバーで道を作り若い子が企画し発言できるようなポジションにしていくようにしたい。 ・CMやWebでの告知を今後も継続し大段的にPRすることで、もっと参加者を増やし、「よさこい」を体験できる一つのメイン事業としていきたい。今年のWebでのアクセス数は特にすごいものがありCM効果を実感した。
合 計				21,326,000	20,769,000		